

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年1月20日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4672900190
法人名	医療法人 健誠会
事業所名	グループホーム すこやか
所在地	鹿児島県日置市東市来町湯田3007番地 (電話) 099-274-3672
自己評価作成日	令和3年11月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和3年12月18日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅街に建てられたホームであり、周囲には公園や商店などがあるが国道から少し中に入っており、静かで安全な環境にある。  
医療機関も併設しており、健康管理を行い定期的な病院受診を行い、週1回は外来の看護師による訪問看護も行われ、少しの事でも相談が出来る為、体調不良時は早めの受診をスムーズに行う事が出来ている。  
緊急時も病院との連携を行い、ご家族にも安心と信頼を得られた生活が送れている。  
新型コロナウイルスにより、ボランティアグループの活動も制限されたりご家族との面会も出来ない状況ではあるが、毎月のお便り発行にて日常の様子をお伝えしたり、窓越し面会やリモート面会の実施で出来る限りご本人の姿が見えるように努めています。  
入居者が楽しく、元気に生活出来るように軽体操を行ったり、散歩に出かけたり日々の関わりの中で持てる力を見極め発揮出来るように努めている。  
食事に関しては家庭的な料理を中心に栄養面に考慮し、愛情込めて職員が毎食手作りし、その時々旬の食材を提供し季節を感じてもらい会話を繋げている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、母体医療機関に隣接しており、緊急時を含め24時間医療連携体制が築かれている。日常生活の中で定期受診及び看護師の健康チェックを行い、家族も安心して過ごしている。
- ・コロナ禍の為、家族等との交流や外出が自粛しているが、家族との面会や事業所からの近況報告により、家族との関係が途切れないように取り組んでいる。強い帰宅願望や不穏等、利用者の状況によっては家族の協力で散歩等に取り組んでもらって、本人及び家族の精神的な安定を図るよう努めている。
- ・他事業所管理者と相互に運営推進会議に参加し、他の地域や事業所の情報を得てサービス向上に活かしている。
- ・管理者は、何かあれば話合いの中で決定し、LINEや申し送りノートを活用して情報共有を図っている。個々の職員の事情に配慮した柔軟な勤務体制等、働きやすい就業環境作りに努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「地域社会の一員として」安心して過ごせるという地域密着型サービスの趣旨を反映させた理念やすこやか基本倫理に基づき実践に努めている。	玄関等の数ヶ所に理念を掲示し、年1回勉強会をしている。職員会議時にケアを振り返り、理念に基づいた実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の行事には積極的に参加していたが、今年は行事なく参加なし散歩は行ったが交流は持っていない。(コロナ収束後再開)	自治会に加入しているが、コロナ禍の為地域行事への参加は自粛している。散歩時に近隣住民と挨拶を交わしたり、住民からの野菜の差し入れがある等、近所付き合いは継続し大切にしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	通常は地域行事参加などで認知症の方の理解に努めているが、本年度は介護実習生は1名であった。施設見学についてはコロナ対策を行いながら説明見学も行った。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	生活状況及びサービス提供状況を報告し、意見交換を通して、毎月の振り返りを行いながら、現状理解とアクシデントのアドバイスをもらっている。他グループホームの管理者にも参加してもらい情報を共有している。コロナウイルスの状況に応じ書面開催も行い意見を頂けた。	2ヶ月毎に運営推進会議を実施し、事業所の状況報告と意見交換を行っており、他のグループホーム管理者の参加もある。事故や不穏の利用者について現状及び対応への理解を得ている。人材確保やコロナ禍での家族の面会についても意見が出され、参考にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村とは書類手続きやサービス提供に関し、何でも気軽に相談にのってもらえるような言葉かけをしてもっており、意見交換をしながらサービスの向上に取り組んでいる。疑問に思ふ事等電話で相談している。	市の担当者とは、運営推進会議時の意見交換及びこまめに電話や出向いて相談し、連携を図っている。メールでの連絡や報告も多くなっている。市の研修会は、リモートも含めてできるだけ参加する予定である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関施錠は夜間のみとし入居者の人格を尊重したケアが行えるよう職員会議や勉強会を通して説明し、ホームの出入り口には、センサーを設けて入居者様の安全に配慮し施錠はしていない。また、言葉かけによる拘束にも注意を払いながらケアに努めている。	指針が有り、委員会を3ヶ月毎に、研修会は年2回実施している。不適切な言葉は気付いた時に管理者から注意を促し、言い換え等の提案もしている。玄関の施錠はせず、外に出たがる利用者はパズルをしたり、一緒に散歩に出て気分転換を図り、行動を制限しないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や勉強会を通し、抑制や虐待について考え、個々の対応を振り返り、情報を共有しながら、職員一人ひとりが意識したケアにつながるよう注意を払い防止に努めている。言葉による抑制に関しては特に注意を促している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要な方がいらした場合には支援していきたい。内部学習を通じて権利擁護に関しても学ぶようにしている。昨年度は管理者、ケアマネが権利擁護推進員養成研修に参加し職員に伝達し日々のケアに生かせるよう努力している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書は、十分な説明を行った上で、ご家族の同意を得ている。解約は身体状況及びその状況を契約者との話し合いを行い信頼関係のもと円滑に行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者からの訴えは些細な事でも耳を傾け、都度職員間で検討している。ご家族には電話あるいはケアプラン更新時や窓越し面会時に現状について説明を行い要望や気持ちを確認し解決に向け色々な職種との連携を図っている。	利用者の要望等は、日常の会話で把握に努めている。家族には、電話や来訪時に要望等を聞き、家族の気持ちに沿った対応を検討している。外食・外泊の制限から本人の不穏が続いた時に、家族からの要望で一緒に散歩をしてもらった事例がある。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニットごとの職員会議や合同会議を行い、日々の会話を通し職員からの意見を聞くようにし、必要に応じ助言を行いながら、話し合いの中で決定するようにしている。	管理者は職員会議で意見を聞く機会を設けているが、必要に応じてその都度話し合っ解決することが多く、LINEや申し送りノートで情報を共有している。個別相談は、主に管理者が対応している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課制度の導入に取り組み、自分なりの評価をそれぞれ行い、職員がどう感じているか把握し、年に1回は面談やストレスチェックを行い職場環境・条件の整備を行い、柔軟な勤務体制に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内学習のほか、外部研修への参加、毎月の勉強会や職員会議を通して、日常のケアを確認しながら、その都度必要に応じて指導を行い、職員育成に努めている。介護の場面、場面でケアについての助言を行ったりしている。本年度はコロナにて外部研修に参加出来ていない。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣のグループホーム間で、運営推進会議への相互参加を行い意見交換を行っている。また、日置市連絡協議会の研修参加や連絡会での交流や意見交換が出来ており、質の向上に取り組んでいる。本年度は書面会議が多かったが電話で意見交換を行った</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活歴を出来るだけ聞き取り、言葉かけを行い、傾聴、会話に努め顔を覚えて頂き不安を最小限に押さえられるように特には入居したては特に務めている。職員も知りえた情報を共有するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談にて家族の困り事を充分把握し、家族だからこそ出来る事、出来ない事を見極めご本人の状態把握に努め、面会時などに家族へ報告を行い、利用者の生活が見えるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の認知の状態をできる限り把握し早期にどのような対応ケア、支援が良いか職員、家族間で検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	間違いを否定する事なく見守りを心がけ、ケアされる事を負担に(認知症)感じさせないよう言葉かけ行動に気配りをし、必要とされていると感じるような作業の見極めを行い関係作りに努められるように職員間で様々な事柄を共有している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>窓越し面会時あるいは電話連絡時に現状の説明を行いながらも、一方的な報告にならないようにしている。コロナウイルスにより施設への面会が制限されている為出来るだけ分かりやすく説明している。面会が再開されたら、ご家族と居室でゆっくり過ごせるように支援する</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>一昨年までは家族はもちろんの事、知人、友人等が自由に会いに来れるよう支援し、また家族との外出をすすめ、外との繋がりがりも大切にしていたが、コロナ禍にて今年は全く出来ていない状況。</p>	<p>家族との窓越しやリモート面会・電話での交流を支援し、電話や「たより」で日常生活等の近況を伝え、家族との繋がりが途切れないように努めている。馴染みの美容室利用や家族の受診同行も実施している。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>席順の配慮を行いながら気の合うお友達とテーブルを一緒にしたり、さりげない言葉かけで、共通の話をみつけ、入居者様同士関わりがもてるように声かけ支援に努めている。認知症が進んでいても共同生活を楽しく行えるよう支援している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>病院入院や、他施設へ移られた際など、家族に電話を掛け様子を伺ったり、本人に面会を行い励ましたり、家族と会った際にも状況を確認したりしている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人、ご家族がどのような暮らしを希望されるか良く聞き、出来るだけ希望に添った暮らしが出来る様に努めている。判断が困難な方も、出来るだけ本人の気持ちを考慮しお互いが納得したケアに努めている。	日常の会話の中で昔のことを話してもらえるように声掛けをして、その中の情報から本人の思いを把握するように努めている。困難な場合は、家族の情報を参考に本人の思いを汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様1人1人の想いを受け止め、ご家族から生活歴などを聞くように努め、家族、本人から知り得た情報は職員間での共有に努め会話の中で内容が深まるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を通し本人の状態把握に努め、日々心身の状態変化など、申し送りや日誌で情報を共有し、毎日が有意義な生活が送れるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人のモニターリングを元に会議で職員から意見をもらい計画を作成し、日々の問題点は職員間で検討し、家族に必要な応じ報告し了解をもらい介護計画に反映させている。	電話や来訪時に近況を伝えて、家族の希望を聞いている。職員会議や業務の中で職員の意見を聞き、家族の希望と合わせて介護計画を作成している。モニタリングを3ヶ月毎に実施し、6ヶ月毎及び状況変化等の必要時に現状に合った計画に見直している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルに記録を行った上で日々の気付きや、実践、結果等日誌や申し送りノートで情報を共有し介護計画の見直しに繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良時等の他科受診を行ったり、食事形態の変更や徘徊者への対応、買い物支援、要望に応じて都度の対応を検討しスタッフ全員でその場に応じた対応に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	慰問、ボランティアは全く呼べず交流の場が途絶えた。ホームの中で出来る事を行い、生活動作を増やし楽しみややりがいを増やしてきた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関の支援は、本人の意向やご家族の希望を優先し支援している。また、協力病院で定期的に受診を行い、緊急時の対応を含め、適切な医療ケアが提供できるよう努めている。必要があれば他科受診も行っている	契約時にかかりつけ医の希望を確認している。母体医療機関との緊急時を含めた24時間の医療連携や週1回訪問看護による健康チェックにより、適切な医療を受けられるよう支援している。他科受診は家族対応を基本にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>協力病院との医療連携を行い毎週火曜日に看護師訪問にて体調面の相談を行った。毎月行う定期受診や体調不良時の状態など入居者の状況を理解してもらっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は、医療機関にADLや認知症状の留意点などの情報を提供し、混乱がないように努め、医師や相談員との連携を図り早期に退院できるように支援し、職員や入居者も面会に行き励ましの言葉をかけている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>プラン見直し時に本人の状態について家族に報告し予後予測を考え検討し、重度化や終末期に向けた方針の共有を図り、家族の希望を聞き、医療連携を図りながら出来るだけ最後まで、本人らしい生活が出来る様に細かいケアに職員全員で取り組むよう努めている。</p>	<p>契約時に重度化指針で事業所の対応を説明し、同意書を得ている。状況の変化に応じて、特別養護老人ホームや入院等の説明を行い、家族の意向を確認している。重度化等の場合は、家族の意向に沿って、事業所でできる可能な限りの支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救急対応について、職員会議や勉強会等に取り入れているが、定期的な職員の訓練まではなかなか行えていない。夜間対応については協力病院と連携にて夜電話連絡を行うようにしている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>入居者参加で年2回日勤帯、夜勤帯想定にて防火訓練を実施しているが地域の方の参加は本年度は出来なかった。 自然災害においては色々なパターンのマニュアル作成や検討がまだ必要と思われる</p>	<p>年2回の避難訓練を昼夜想定で実施し、1回は消防署の立ち会いと母体医療機関職員の参加がある。コロナ禍の為、地域住民への声掛けはしていない。災害用の備蓄は法人で確保しているが、事業所でも米・乾物・冷凍食品等の食料やカセットコンロを準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議や勉強会にて、その時々々の場面で、自尊心を傷つけないように指導を行い、日常的に職員間でも一人一人を尊敬する心で接するように指導し良くない言葉遣いが聞こえた場合は説明指導を行っている	研修を実施し、さん付けでの呼びかけや入室時の声掛け、トイレ誘導時のさり気ない声かけ等、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。申し送りは利用者に聞こえないようキッチンで行い、プライバシーを確保している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決めつけた言葉かけにならないように意見や気持ちを引き出せるような言葉かけを行っている。自己決定出来ない方には、その気持ちになり支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には、日課に沿った生活ではあるが、1人1人の意向に合わせ、無理強いしないよう言葉かけを行い、希望があれば可能な限り対応し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	洗顔時に髪を整えたり、日中の服装は自分で選んだり、選べない方はその方に合った服を選び着用してもらい、また洋服の汚れ等は気付いた時点で更衣交換、洗濯を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	目の届く範囲で食事を摂り、レクや会話の中で嗜好を把握し、季節の食材など提供し喜んでもらえるように努めている。食べやすい食事提供に努め、後片付の手伝いに参加してもらっている	献立は職員が作成し、差し入れの野菜等や旬の食材を柔らかく調理して提供している。利用者も一緒に片付けをしている。季節の行事食やクリスマスや敬老会の仕出し弁当等、食事を楽しんでもらえるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月初め1週間の水分チェックにて平均摂取量を把握し、毎月体重測定を施行。毎食後食事摂取量の確認を行い、摂取量が少ない時は工夫をしたり、医師、家族に相談し補助食品等の提供も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促し介助が必要な方には、最後まで付き添い義歯洗浄剤の定期的な使用等で口腔内の清潔保持に努めている。必要に応じ訪問歯科や歯科受診を家族と相談し行っている		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表の活用を行い1人1人の排泄パターンを把握し、出来るだけ失禁にならないように時間誘導や言葉かけ誘導を行い気持ちよく排泄が出来るように支援している。	排泄パターンに応じた声掛け誘導や時間誘導を行っており、日中は全員トイレでの排泄で、自立に向けた支援を行っている。夜間は、身体状況等によりポータブルトイレの使用やパット使用の利用者もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃より食事のバランスや、水分摂取量、乳製品の提供等配慮している。また便秘についての理解をし、ホール内や屋外散歩などで自然排便が出来る様に取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	希望に添えない日もあるが、入浴時間の範囲内で順番や時間など柔軟に対応し、入浴日を決めている方も中にはいらっしゃる。状況に応じ入浴剤を使用し入浴中はプラスの感情を残さるように会話をし次回入浴に繋がるように心がけている	週3回の入浴を午後に実施している。希望での同性介助や必要時は2人介助を行い、ゆっくり浴槽に浸かって会話を楽しんでいる。入浴剤を使うこともある。嫌がる場合は無理強いせず、タイミングを見て声掛けしたり、翌日に変更している。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調、気分に合わせて居室やホールの過ごしやすい場所で自分の思い通り生活してもらう事で夜間も落ち着いて臥床出来るように支援している。寝具の清潔や室温にも気を配っている		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送りや勉強会等を行い、服用初期の経過観察に努め、薬の変更等は申し送りを行い変化確認に努めている。経過に関して医師との連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の会話や家族からの情報をもとに、生活歴を知り興味を持てる事や得意な事を考慮し、今までの生活習慣を活かし有意義な一日になるよう支援に努めている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	その時、その日の希望に全て添う事は難しいが、外へ行こうとされる方には屋外と一緒にいき納得のいく対応を行っている。本年度はコロナの影響で屋外行事や外出が出来なかった為天気の良い日は散歩を出来るだけ行った。	天気の良い日は、近隣や公園の周囲を散歩している。コロナ禍の為外出は自粛しているが、花見のドライブには出かけることができた。他科受診や美容院へは、家族の協力を得て出かける利用者もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人では所持金はないが、購入希望があれば、家族からお金を預かり、能力に応じ一緒に店に行き、必要物品購入の支援を行っている。本年度は一緒に買い物に行く事は出来なかった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話の取次ぎも行い、自分でかけたいとの希望があれば、対応を行っている。携帯電話を所持される方もいたり、年賀状作成や手紙の投函を頼まれば行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温、湿度を1日を通し確認し整理整頓を行い、過ごしやすい環境を心がけている。ホールには季節の花を飾ったり、毎月職員と壁画を作成し、話題を共有し、今の季節を楽しんでもらえるようにしている。居室には自分で作成した作品を掲示したりしている。	ホールは季節の作品や花を飾り、季節を感じてもらえるように工夫している。居室やホールの窓開けて換気を行ったり、加湿器やオゾン発生装置、エアコンで過ごしやすい室内環境に調節し、利用者が好みの場所でくつろげるようソファも置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席やソファで過ごせる居場所があり、本や新聞、テレビ、音楽など自由に観賞できる。また、気の合う方との会話やテーブル配置も工夫し、タイミングを見て声かけにて他者との会話を繋いだりして、居心地の良い空間づくりに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物を持ちこんで頂くように声かけを行っている。本人にとって使い慣れた物ばかりではないが、家具などの配置は動きやすく安全な動線に考慮している。落ち着いて生活ができるよう必要があれば時々配置換えも行っている。	居室には、ベッドや洋服ダンス・整理ダンス、エアコンが備えてある。本人は、テレビや本、写真、ぬいぐるみ等を必要に応じて持ち込み、安心して過ごせるように部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせ、居室ドアに大きく名前の表示を行ったり、トイレや洗面所、居室など、目印や案内をして一人で出来るだけスムーズに動けるように工夫している。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
		○	3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない